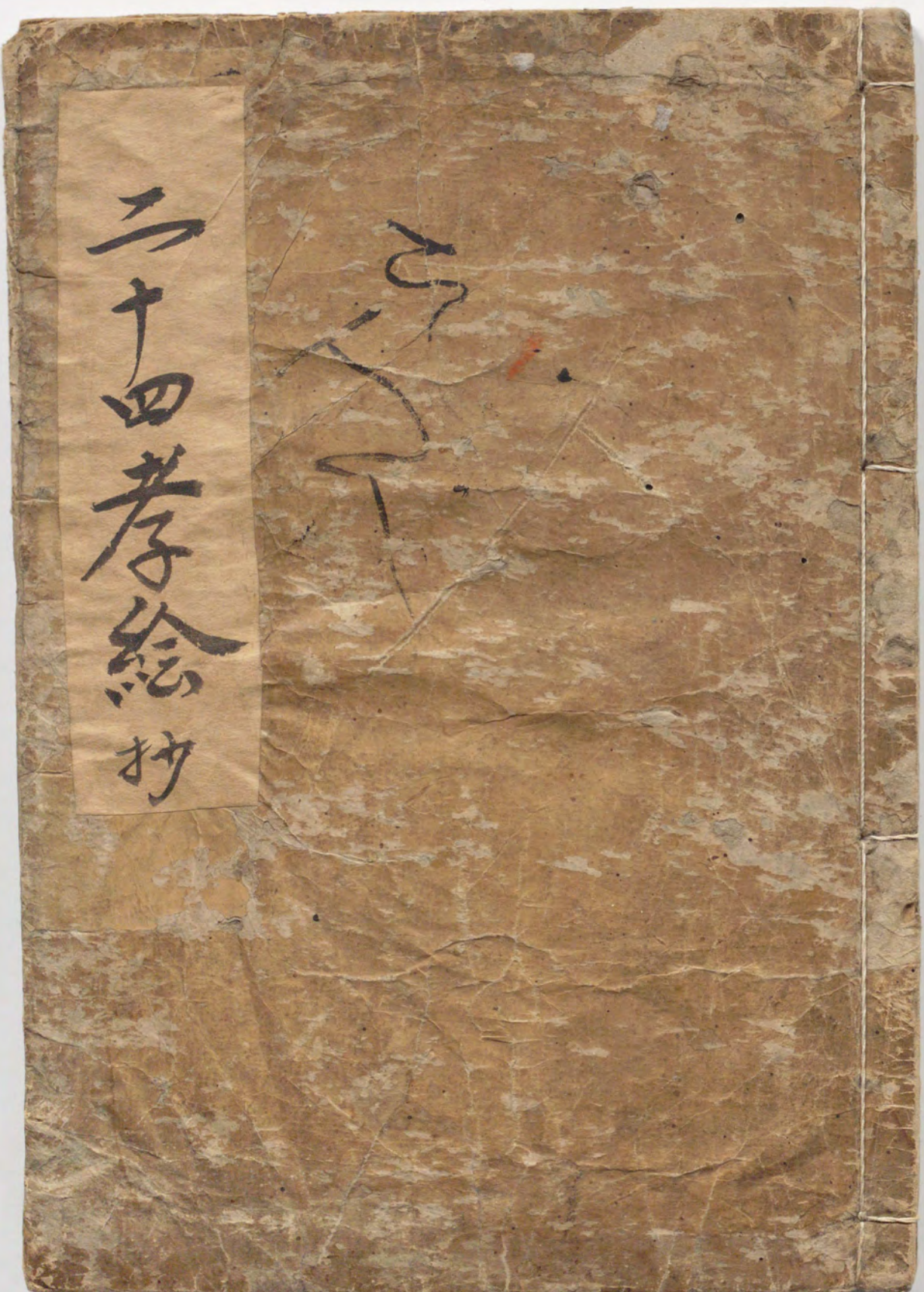
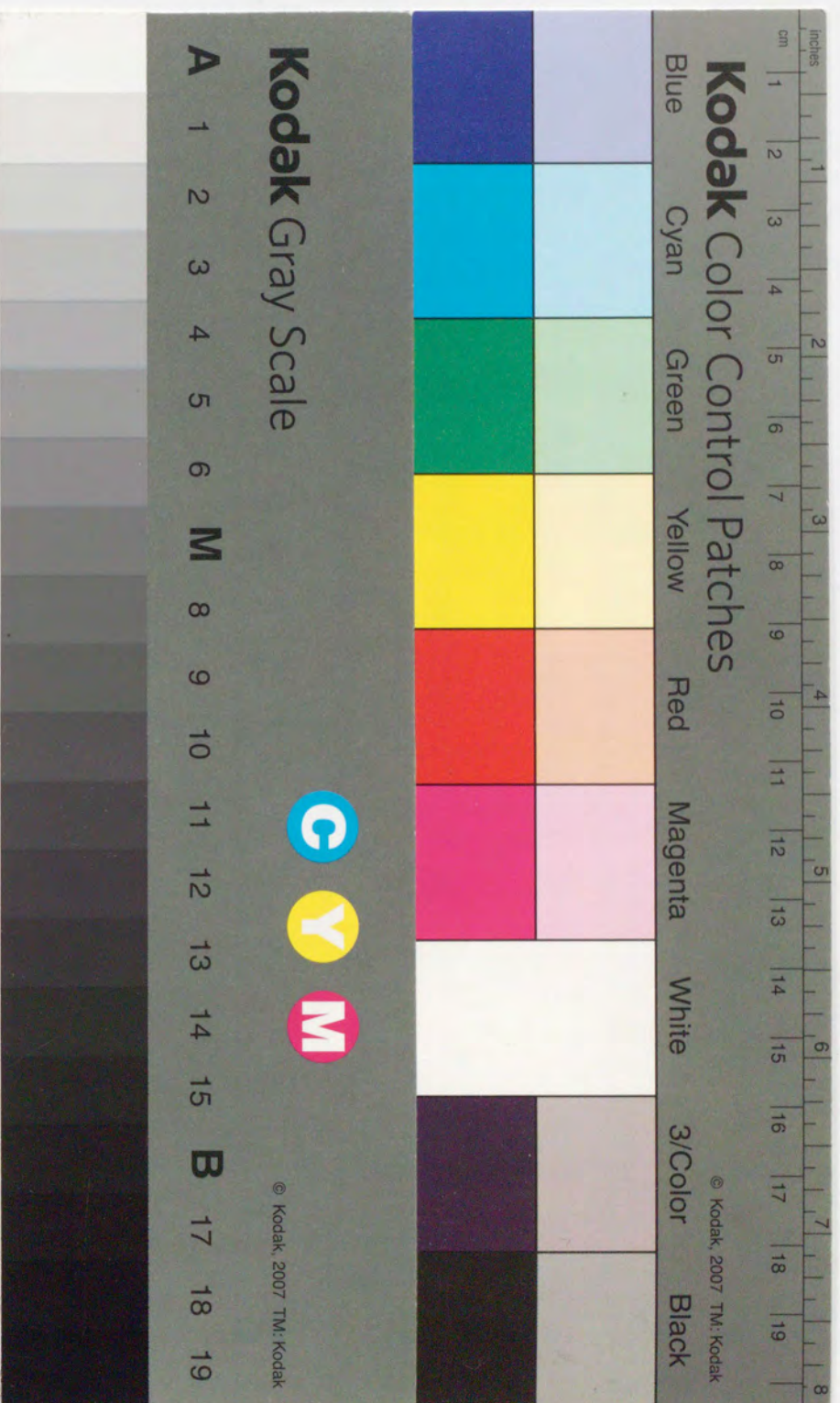




有
三
鳩



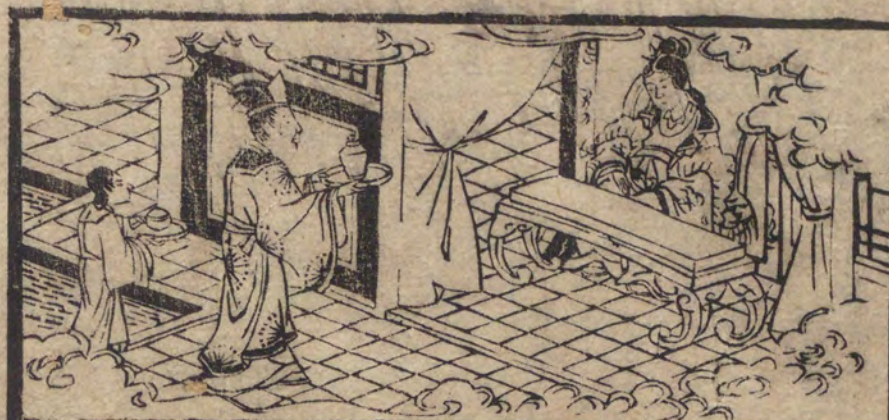
大
太
太



隊々耕春象
嗣々宅宝位
乃威初天心

大なるんはてしなくあるんや父の君こそう
といふ一岐のつてなるかて母はこゝろきん
ありあかきつていづらん之れはたふらんか
とてなほつていづらん其時をいふに耕さ
ふけふかたがめくはらんて大なるあ
まて田とてあてたがわし又るこびきつて
田のあそとてさうう他つたとけとてさ
こそ其時の天下れまをいふ王と名づけ
はるまはとあとのとてはるまはとあ
いれはとあまのしやうき王のあまの
あまのあまのしやうき王のあまの
あまのあまのしやうき王のあまの
あまのあまのしやうき王のあまの

漢文帝



仁孝天子
漢廷事賢母

魏々冠百王
湯茶必親嘗

漢の文帝は漢高祖の孫で、母は呂氏。幼少のときから仁孝の心を持ち、母を大切に育てた。即位したとき、母を尊ぶことを第一とし、母の病を癒すために日夜祈りを捧げた。母の病が癒え、母が喜ぶ姿を見て、文帝は涙を流して母を慰めた。母は文帝の孝行に感動し、母の病が癒え、母が喜ぶ姿を見て、文帝は涙を流して母を慰めた。母は文帝の孝行に感動し、母の病が癒え、母が喜ぶ姿を見て、文帝は涙を流して母を慰めた。

孟宗

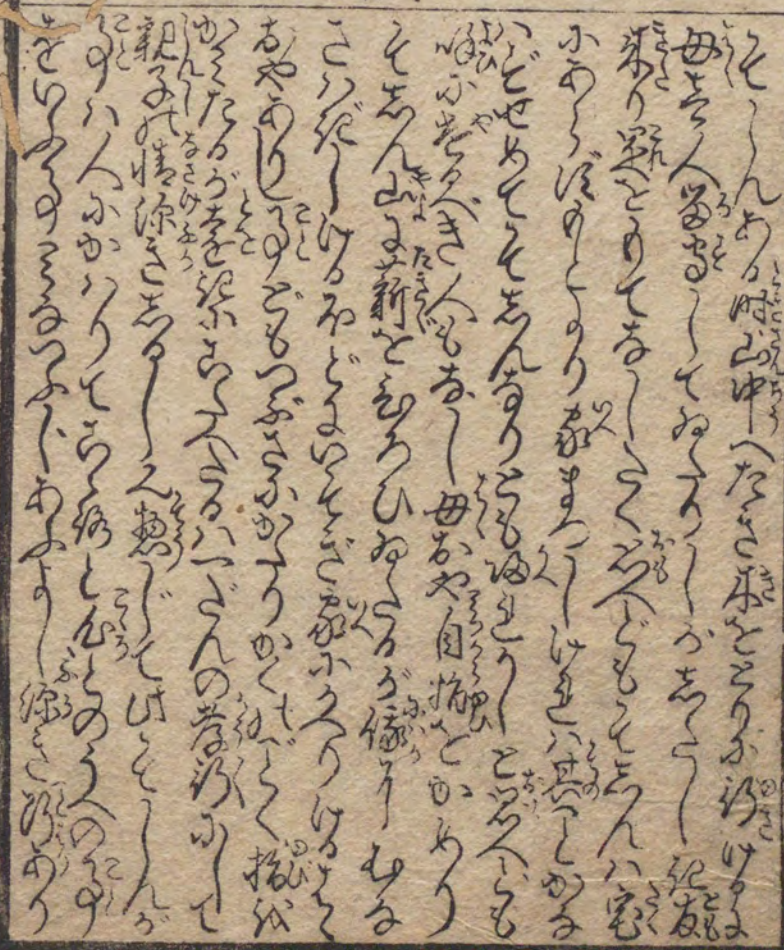


孟宗
漢史春秋出

蕭く竹
天定新平安

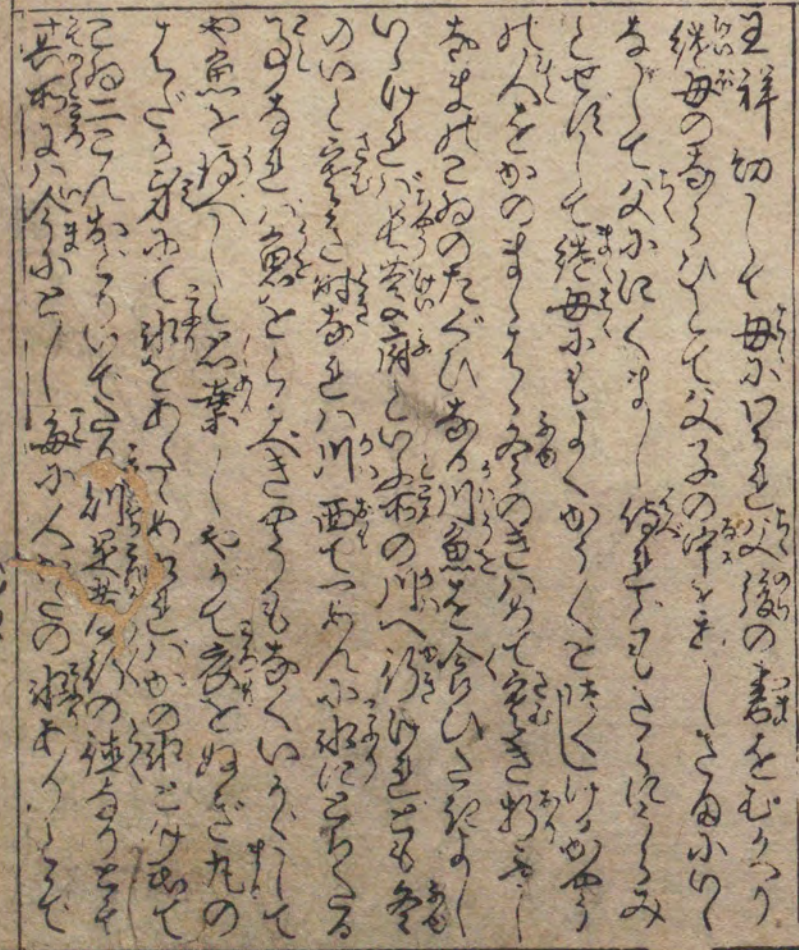
孟宗は蜀の王の孫で、母は孟氏。幼少のときから孝行の心を持ち、母を大切に育てた。即位したとき、母を尊ぶことを第一とし、母の病を癒すために日夜祈りを捧げた。母の病が癒え、母が喜ぶ姿を見て、孟宗は涙を流して母を慰めた。母は孟宗の孝行に感動し、母の病が癒え、母が喜ぶ姿を見て、孟宗は涙を流して母を慰めた。

三



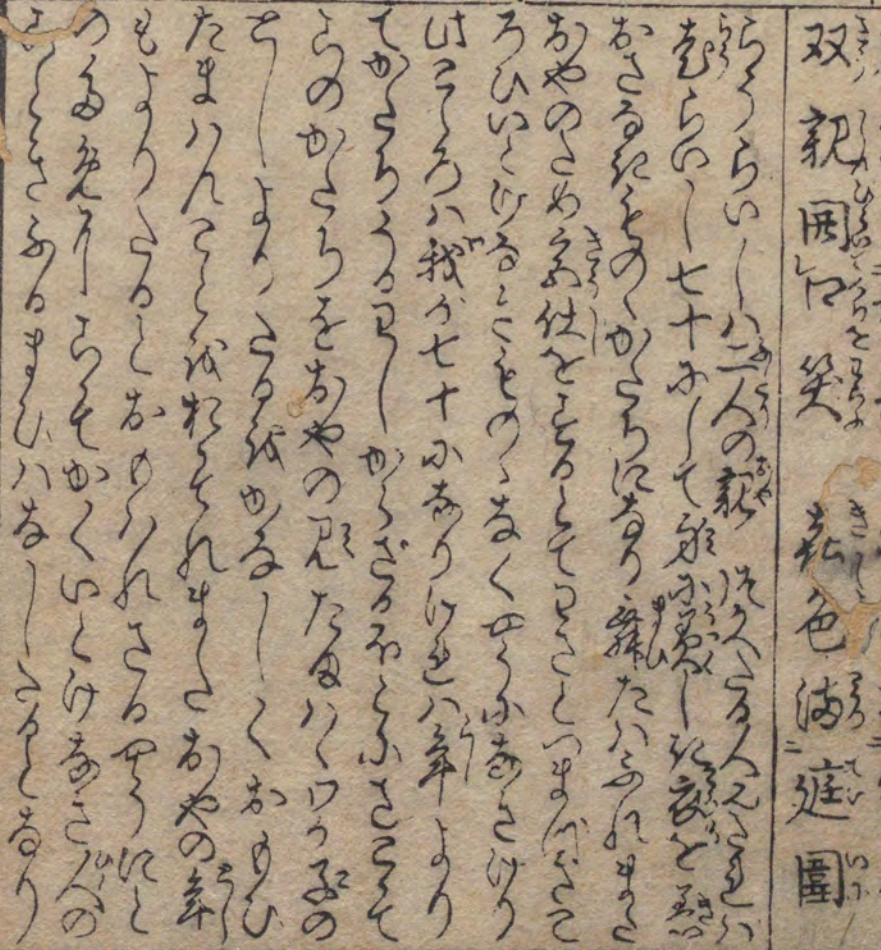
へんしんあつちゅうへなさまをとりかへ
 むき人當おしてゐるうーかあうー
 あり難とりてあうーくもそあんい宅
 かあうぼりこりあまうーけさ共しあ
 いせめそあんうーでも海とうとぞくも
 あふさき人もあう母あ自指とわたり
 とあんふは新とあらひあううう儲うむな
 こらだうゆわとよれそごあううゆわ
 ああかりうーでもあうあうのくとく揺
 かたううきを染あうさうハさんの若み
 親子情誼さあうーえ熱うてげとしん
 ひはんふかりてら病とむとのう人の
 さやうううううううううううううう

純母じゆんぼ 人ひと 間ま 有あ
 今いま 河か 水みづ 上うへ
 一いつ 王わう 祥しやう 天てん 下か 玄げん
 竹ちく 卧お 沙さ 模も

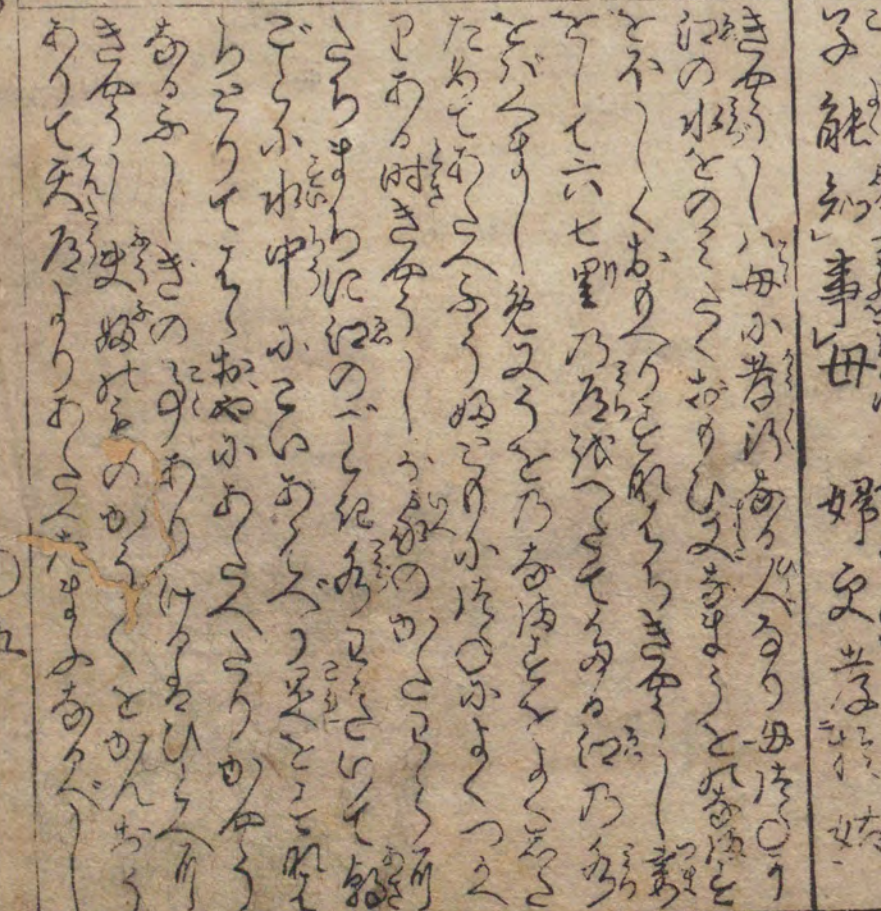


卷二

三

[illegible]

一朝雙鯉魚



唐山人



敬崔家婦 郭姑展盟
恩無報 願得子孫如

て万食ふらんとうとて長瀬山人年老
さそくち又知こふのみと借ひてのやう
よくなと決りてつて殺めん屋しる人
正ある時長瀬山人とていひていひて
死せんとなりひ一燈をのりてつて
よめ唐山人の殺めんの悪情を破る
いま死せんが妙ありおふ孫は唐山人の
名義とものいひんあつてつてつてつて
罵とていひいひりあつてつてつてつて
いあるが今もつてつてつてつてつて
つてつてつてつてつてつてつてつて
つてつてつてつてつてつてつてつて

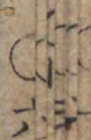
楊香



深山自 努力持腰
父子俱無恙 脱力終に中

やうきやういりの父とてつてつてつて
一あつてつてつてつてつてつてつて
めいとう一あつてつてつてつてつて
さうん一あつてつてつてつてつて
あつてつてつてつてつてつてつて
を虎めつてつてつてつてつてつて
あつてつてつてつてつてつてつて
あひけるあつてつてつてつてつて
つてつてつてつてつてつてつて
を死けるあつてつてつてつてつて
うを死けるあつてつてつてつてつて
あつてつてつてつてつてつてつて
あつてつてつてつてつてつてつて
あつてつてつてつてつてつてつて

廿四



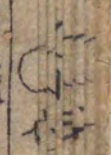
孝コウ天テン
威イ婦フ
盡ジン陌マク
知チ工コウ
名メイ遠エン

大石子云



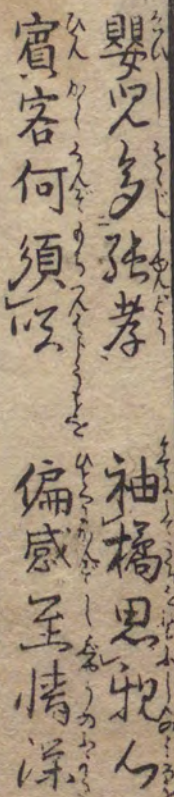
冬フユ 凡ソレ 温ユル 衾カミ 煖ユル 夏ナツ 天ソラ 之ノ 服モノ 光ヒト 澤シ
兒コ 童ドウ 急キウ 子コ 穢ケガレ 小コ 古コ 一ヒト 黃ワウ 香カウ

まうまういねんやうといふ家の人あり
 九さの時にあられあふまうつ人
 てらわをばくせりさきさきあわ
 てあひさありふあまうや麻をわあ
 ひてまう一ちて桑させ又あわて
 まうささきいふまう乃つめさきとし
 とあま一みてまう身をりめてまう
 えてまうまうわあうまうなま
 一そまのまう人利便といひ人
 わうまうをわくまうわまうな
 けりあまうまうまうまうまう
 四百余の人のまうまうまうまう
 一乃人ありとあまうまうまうまう

[illegible]

王がふりよしのひきとりて帝王より
 おもなうも死けりとうみとて
 いふても免せさりし父の墓におめて
 おとろふ柏のまみとりつとて
 あまごのうきておももきこるこ
 ありとてをるる人なりけむ
 あまののちおももらひんのおけ
 母のてちおへけりううこれなり
 そうのちうを死くる母より
 ううおあてのちもむわう
 けををりていけとてこの
 ずしとあうとてありて

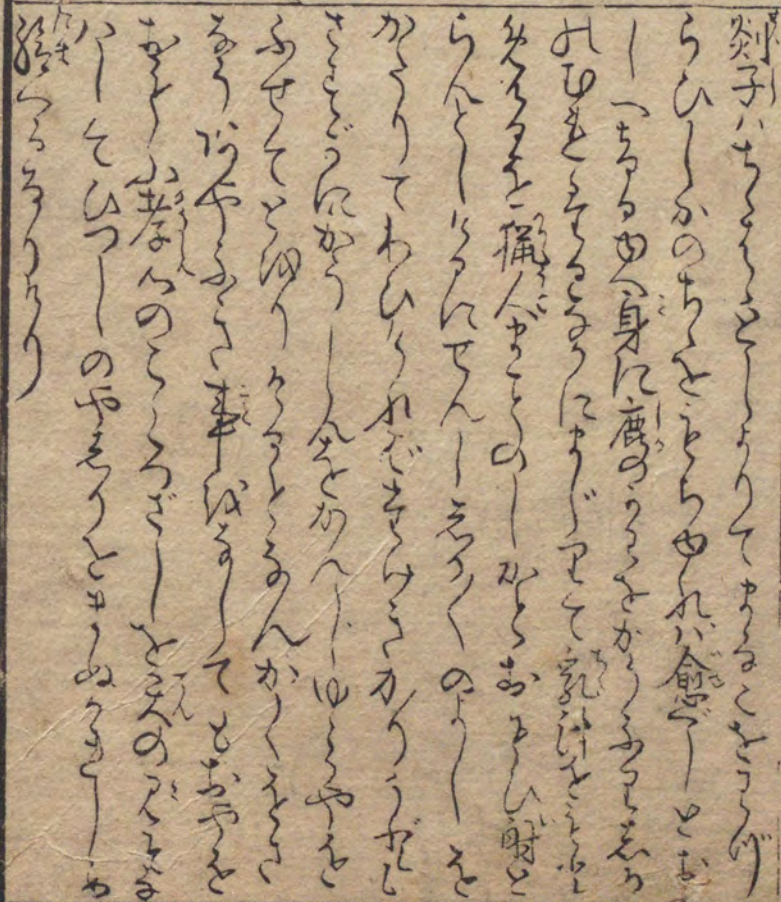
大田學士

[illegible]

十

言吸鹿乳宜

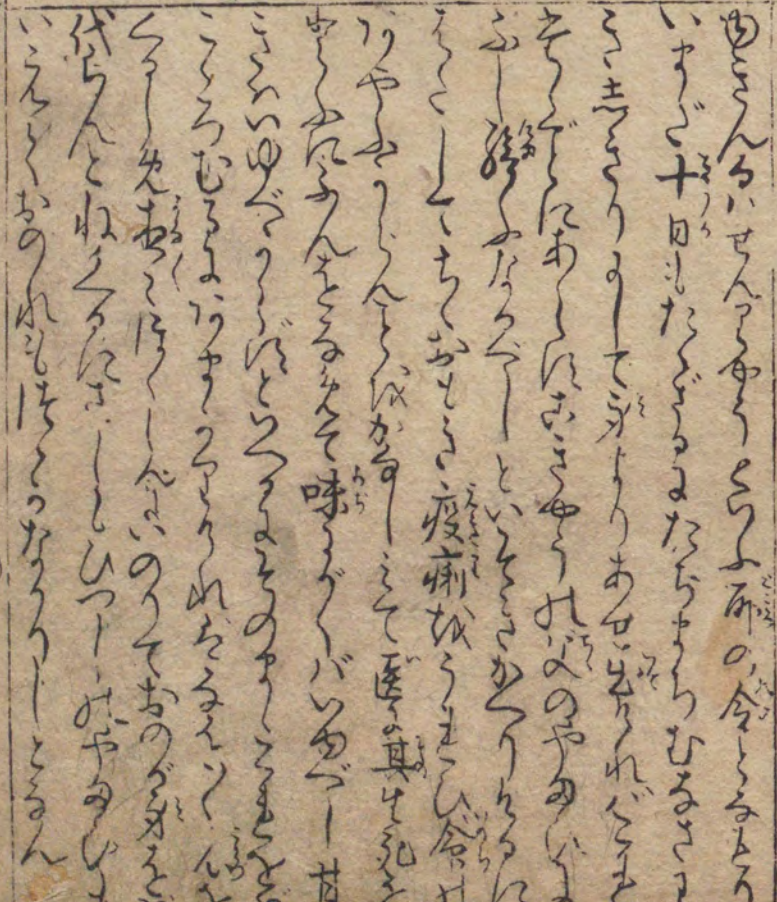
獵人欲射時



心知親以病

歸鄉奈重軫

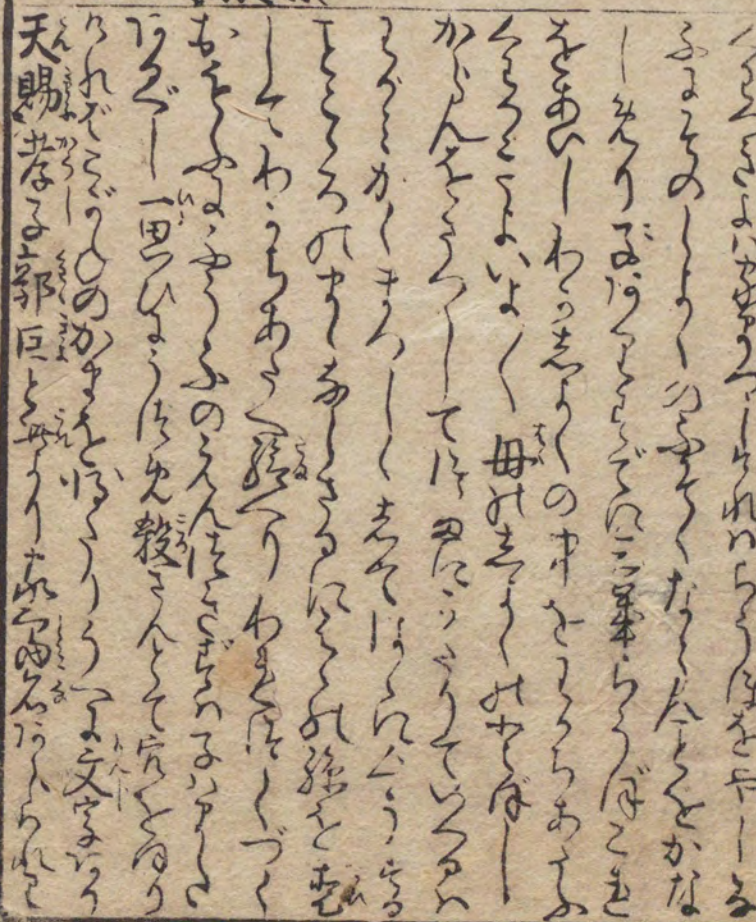
訴天遂得生



卷之四

侍母 躬耕桑

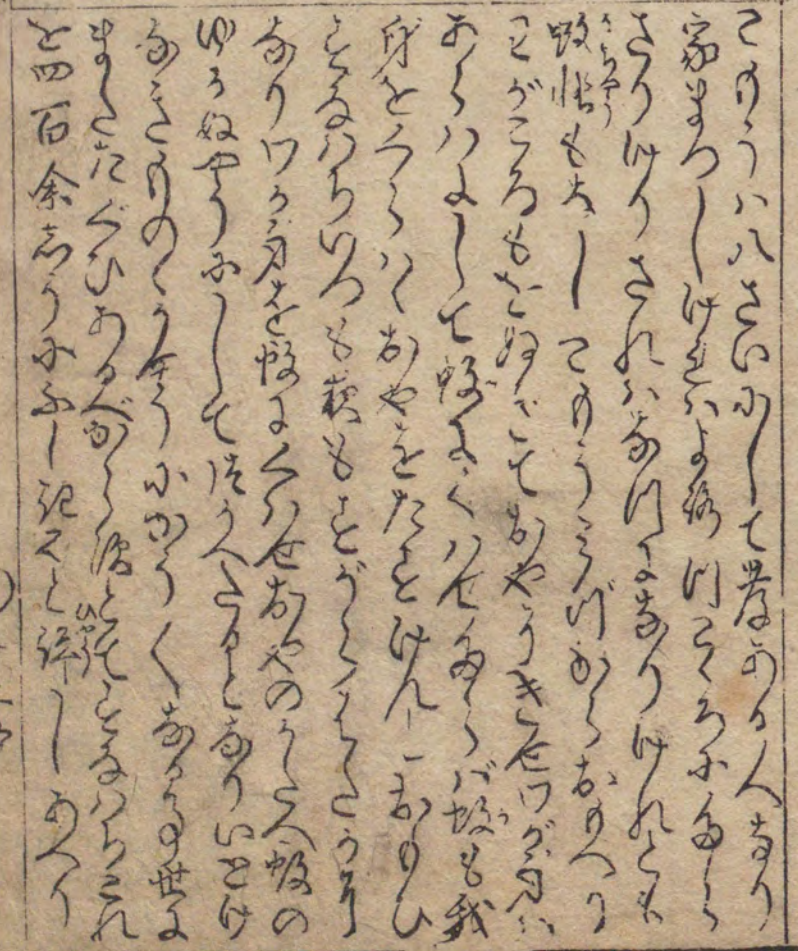
地中發金光

[illegible]

笠夜^{うや}
 無^な
 帷^ゐ
 帳^{ちやう}

蚊
多
不
殺
揮

免使入親圍



てりういハさいわいして君のめんあり
家まりしけいふもあにそふあふ
さうけうされいあけふありけれとも
敗北ちやうもあしてりうさうげあふなりつり
こがころもさめてあやうきをわがふ
あふよしとあふくせあふバ城も我
所とつりあやをたをけんあひい
とふりりりもあふとがうさうさう
ありつりあをたふくせあふうさ城の
ゆるぬさうふしそはうさうとありいせけ
あふりりりりさうふつりくあふりり世ふ
すうさうさうあふりりりりりりりり
と四百余ありふりりりりりりりりり



生事之以禮死葬之以禮祭之以禮

今之孝者。是謂能養。至於大馬。皆能有養。不數何以別乎。

勝尾屋兵衛版

